



雪の降るなかを各務の八ヶ岳まで行く日々に……



広報車「りんどう」を先頭にレントゲン車やNHKサービスカーも……



山また山、2日目から矢部郷は雪が降りしきつた……



廊下では県政写真展もひらかれた……

総合懇談会場で挨拶する水上副知事……



カメラスケッチ 矢部郷をいく移動県政相談

盛りあがった郷土づくりの意欲

さる1月25日から3日間、県ではNHK熊本中央放送局、元町村との共催で「矢部郷をいく移動県政相談」を開催した。会場は矢部町島木、同町御岳、清和村の三カ所。

従来の文化キャラバンとは全く趣を異にし、部落の人々とじっくり膝をつき合わせて郷土づくりを語り合い、人々の声を県政に大きく反映させようというもの。

農業、土地改良、林業、畜産の四つの部会では活発な話し合いがなされたが、終つて、各部会の結論を総合懇談会でまとめ大きな成果を収めた。又福祉、衛生関係は相談室を設け、いずれも押すおすの盛況。

夜はNHKの「演芸の夕」、娯楽に乏しい矢部郷の人々に、冬の夜のひとときをゆつくり楽しんでもらった。



診察にてんてこまいの衛生相談室……

四つの部会では町づくり村づくりの討議が真剣に……



開拓管農は文字どおり、未開地を開拓して新しい管農型態を築いていくのだから、既村農家のそれに比べてかなりの困難性が伴う。しかも入植者の中、大半が引揚者で農業未経験者ばかりなのだから、一歩方向を誤ると転落する憂目さえある。こういった開拓地の人たちにひとつの力強い支えになっているのが開拓管農指導員である。

森田さんの場合……★

現在、各事務所に一名あて（球磨事務所は二名）この開拓管農指導員が配属されているが、開拓管農の難しさ、もにその指導も並大抵ではないようである。ではその活動ぶりを少しでも知って頂くために、こゝに一つのケースを紹介することにしよう。

広い指導範囲……★

森田さんは仕事以外によく開拓地の人々から夫婦喧嘩の仲裁や、子供の就職問題などを相談されることがある。とにかく管農指導員は、自分の担当地域の事情に関しては管農条件のデータは勿論いろいろなどに精通していなければならぬ。又そうでなければ個々の農家の細かい管農計画をたて、これを指導することはできないだろう。

管農指導といつても相当範囲が広いから、管農指導員として直接できる面にも限界がある。例えば、森田さんの場合、まず担当各地区の土地条件に合った夫々の作付体系の方向を与え、その計画に基

いて技術指導を行っているが、その場合主に陸稲、麦、甘藷、果樹などの栽培指導に主力が注がれる。その他の、生活改善や家畜衛生などの総合指導は、地区の農業改良普及所や家畜保健衛生所が直接指導している。その場合、森田さんによつてうまく連げいとられ各センターの協力態勢がとれているので、必要に応じて指導が行われている。

徹夜になる研究会……★

何しろ開拓管農指導員はよく歩かなければならない。

森田さんがこの七年間の管農指導で、どうかか自信を得たものは果樹栽培と畜産を取入れたことである。天草は、一般に普通作は干害に弱いので陸稲の早期栽培が奨励されているが、別な面でも果樹栽培に適地だといわれている。

この特徴を早くから森田さんは開拓管農に活かして大半の開拓地区にみかん栽培の指導を試みた。だがみかんは、植えてから五年間は採算がとれないし、資金面の対策も大変だった。

みかんができるまでの間作として甘藷、そ菜、陸稲の指導を併行して行い、そのかわり養豚、鶏を奨めて徐々に多角管農へと切替えていった。

開拓地の人たちにとって管農指導員は最もよき相談相手であり、謙虚なドクトルでもある。だから管農指導はこれからも決してゆるがせにはできない。開拓地の人たちもこの頃では自主的に講習会を開いて管農研究を進めている。森田さんはさらに新しい感覚と技術で指導を展開しなければならぬ。

（広報録）